

令和6年度 北海道本別高等学校 学校評価のまとめ

	本校の経営方針及び 指導上の重点事項	自 己 評 価				学校運営協議会評価
		主な成果と課題（● 課題印）	R 6	R 5	改善の方策（● 課題解決）	
学校 経 営	(1) 学びの主題を自分事としてとらえ、目的意識を持って探究的に学ぶ態度を育む (2) 生命を尊び、自他の存在をかけがえのないものとして認識するとともに、適切に判断し、意欲的に行動する態度を育む (3) 視野を広げ、また、先を見通し、社会の担い手となる力を身に付けながら、自己実現に励む態度を育む (4) 心身の健康の保持・増進に努めるとともに、自他の安全・安心を守ろうとする態度を育む (5) 創造的な取組を通して、自主・自律・自治の精神を培い、社会的自立を志す態度を育む	○本校の現状と課題及び教育改革の動向等を踏まえた学校経営方針及び目指す学校像を示し、教職員の共通理解の促進に努めた。 ○地域連携校としてのメリットを有効活用し、生徒の進路実現に向けた講習、模擬試験の事前事後指導、「まなびの部屋」の活用による個別指導など、主体的な学びにつなげる取組を充実させ結果に結びつけることができた。 ○教職員が全生徒の状況について情報を共有し、困り感を抱えている生徒に対して、保護者、ＳＣ及び関係機関と連携し支援した。 ●CSコーディネーターの人材確保と役割の明確化を推進し、さらに協働体制を強化する必要がある。 ●保護者への情報提供等を充実させ、理解を促す必要がある。	3.4	3.5	・地域資源を活用した活動への理解を図りながら、さらに高校の魅力化・特色化を推進 ・学校規模に応じた教育活動の実施（外部指導者、学習支援員、ＣＳ推進員の活用） ・学校ＨＰや学校通信を活用し保護者への情報発信を充実 ・学習評価の適切な実施と改善のサイクル確立 ・模試の事前事後指導、「まなびの部屋」の活用や通信などによる取組の活性化 ・各教科・科目の内容を関連付け、見える化する取組の充実 ・CS関係者や地域の関係機関との情報共有（コンソーシアムの活用） ●CSコーディネーターによる地域と学校を繋ぐ役割の強化 ●教育活動について「学校だより」を通じて情報を提供し、学校評価アンケートの評価項目を工夫・改善 ●学校行事等の情報発信に、SNSの効果的な活用	・小規模ながら、高い進路目標を実現できる環境であることは評価に値する。 ・生徒の安全・安心を確保できている。 ・探究活動の他にも、コーディネート機能 が必要な事業があるため、学校と地域を つなぐ役割を担う人材の確保が必要であ る。 ・地域の各種機関との日常的な連携が必要 である。 ・学校の取組が十分に保護者に伝わってい ないことが、アンケート回答率及び評価 に現れている。情報提供の方法やアンケ ートの評価項目等を改善する必要がある。 ・地域への情報発信には課題が残る。学校 ホームページに加え、ＳＮＳを活用する 等の工夫が必要である。
学 習 指 導	(1) 多様な進路に対応しうる教育課程のもと、生徒個々の特性に応じた学習指導を展開し、主体的で対話的な深い学びができる授業展開を目指す。 (2) 分掌・学年・事務・委員会との連絡・調整を緊密に行うとともに、業務運営の効率化を図る。	○基礎的・基本的な知識を習得させる個別指導を行うなど、一人ひとりの生徒の学 習状況を捉えながら指導できている。 ○ＩＣＴを活用した授業が一部の教科から全体へと広げ、活用に向けた研修を充実 させることができた。 ○校内研修を実施して各教科毎の観点別学習評価の方向性を示し、ICT に係る研修 機会を設け、授業等への活用を促進した。 ○継続して探究コーチの支援を得て成果をあげているが、より地域と密着した活動となるよう令和7年度についても計画をしている。 ●オーストラリア海外研修を実施し、グローバル人材育成に係る取組を始めることができた。事前事後研修及び報告会等を充実させ、より効果的な取組とする必要がある。 ●地域との連携した生徒の学びをさらに推進するために、ビジネス系の科目を設定し教育課程を編成したが、人員確保について検討する必要がある。 ●教科・科目における探究的学びの推進と 教科横断的学習の充実を図る必要がある。	3.5	3.3	・教育課程の適切な管理と恒常的な検証 ・授業研究と授業実践の地域への積極的な公開と魅力ある授業展開 ・ＢＹＯＤに伴い、ＩＣＴ活用の促進と個別最適な学びの推進 ・総合的な探究の時間の年間計画に基づく 確実な実施と探究コーチの支援 ●令和8年度教育課程の編成に際し、生徒の学びの選択肢を多様にするための方策と検討、さらに人員確保の検討	・総合探究だけでなく、理科系科目・社会 系科目においても地域と連携し、実践的な授業展開がなされることが望ましい。・・総合的な探究の時間は、昨年度の取組か ら飛躍的に学びの質を高めている。 ・オーストラリア研修の事前事後研修を充実させ、英語に親しむ環境づくりを高める機会を町教委と連携して推進しグローバルな考えと英語教育への興味関心が現れた。 ・とちか創生学は、まちづくりへの貴重な 提案であり、それぞれが課題を持ち、調査や研究、考察をグループでとりくむ姿 勢は評価できる。 ・町の人的支援が教育活動を支えている。探究学習の成果が進路実績等にも現れている。
生 徒 指 導	(1) 「地域から信頼される」生活状況の形成を目指す。 (2) すべての生徒が安全で、安心できる学校生活状況の形成を図る。 (3) 生命や人格を尊重する精神を養い、望ましい社会性および豊かな人間性を育てる。 (4) 主体的・発展的に行動できる生徒の育成を目指し、生徒会活動の充実を図る。	○集会時における生徒指導部による講話や、生徒指導部だよりなどにより自己指導力の育成が適切に行われている。 ○ＳＣとの連携を図った教育相談をもとに教育支援委員会がなされ、生徒理解の促進及び適切な支援がなされている。 ○いじめ防止基本方針に則り、いじめ防止対策委員会を開催するとともに、職員全 体で情報共有するなどいじめや問題行動等の防止と早期の対処ができている。 ○学校祭では生徒の主体的な活動がなされ、教職員と保護者が適切に活動をサポートした。 ○非行防止や安全行動に関する注意喚起のほか、生活全般の注意を促す通信を発行 するなど、家庭との連携を図り事故防止に努めた。 ○教員や外部指導者の協力のもと、生徒会、HR や部活動などが行われており、生徒の自主的・自発的な活動が促されている。	3.3	3.3	・生徒情報の共有化、関係機関や家庭と連携した継続的な生徒理解と支援 ・主体性を育む生徒会活動の実践と学校祭等における地域との交流等の検討 ・非行や生徒事故の予防に係る生徒の自己指導能力の育成 ●研修の促進と組織的な校内体制及び対応の充実 ●部活動外部指導員の人材確保と連携(人材確保に係る関係機関との連携)	・いじめ等の不安がなく、生徒が安心して 学校生活が送れていることは高く評価で きる。 ・生徒の活躍を外部へ発信したり、生徒が 外部へ出ていく機会を増やすようにして ほしい。 ・地域連携校となり、多くの活動において帯広柏葉高校との交流がなされており評価できる。今後も継続してほしい。 ・生徒、教職員ともに学校安全や防災に対 する意識が高い。 ・部活動など、あらゆる教育活動を通して、 生徒のコミュニケーション能力を高めたり、いじめ防止になっている。 ・やりたい部活動ができないという理由で、本別町から他の高校に進学する生徒が多く残念である。 ・町内義務教育との情報共有や連携を一層充実させる必要がある。
進 路 指 導	(1) 学校の教育活動全般を通して、総合的・継続的な指導を推進する。 (2) 主体的、探究的に進路活動に取り組む姿勢を育成する。 (3) 生徒の状況に対応した進路指導を実践する。	○進路に対応した個別指導がなされており、更に、進路情報についての提供に努めた。 ○就職・進学ガイダンスに積極的に参加を促すなど就職指導の充実に努めた。 ○ T-base 等の個別指導の充実により、国公立大学に4名の合格者を出すことができた。 ●地域連携校の強みを活かし、さらに個に応じた進路指導体制の充実を図っていく 必要がある。 ●インターンシップについて、中学校との実施事業所や内容の重複が見られること から、連携して系統的な取組とする必要がある。	3.4	3.2	・キャリア教育の全体計画の作成と計画に基づいた取組の推進（総合的な探究の時間、特 別活動及び教科・科目との連携の検討） ・定期的な進路希望把握と指導の一体化 ●主体的な学びを促すため、模試の事前事後指導、ICTの活用、放課後の「まなびの部屋」の活用などによる個別支援の充実 ●地域連携協力校との連携を促進し、受験対策を中心とした支援を充実 ●CSコーディネーターを介して中学校との連携を図り、系統的なキャリア教育の実施	・探究的な学習と地域連携校のメリットが生徒の進路に活かされはじめている。 ・キャリア教育について、小中学生が高校生と関わる効果は大きい が、教育課程上、頻繁に行うことは難しい。 ・海外研修がスタートしたこともあり、グローバル人材の育成という観点も強く持つべきである。
健 康 ・ 安 全 指 導	(1) 基本的な生活習慣や心と体についての理解を深め、主体的に健康を保持・増進する力を育てる。 (2) 人とのつながりの中で自己の在り方・生き方を考え、生涯にわたり健康に生きる態度の育成を図る。	○学校保健委員会を定期的に設け、学校医から助言をもとに、感染対策を実施した。 ○不登校など困り感を抱えている生徒への対応を、教育支援委員会で情報共有し、 全教職員で対応するなど支援を継続し、安心・安全な教育活動の実施に努めた。 ○体育的行事の充実、部活動や同好会など課外活動の促進、運動に親しみ体力の向 上や、協働的な活動を一層充実させる必要がある。	3.5	3.5	・保健・安全計画及び個別の指導計画の周知徹底 ・体育健康や各種活動に関する情報提供、各部活動・同好会の充実など取組の工夫 ●外部機関との連携による情報共有と協働体制の構築 ●関係機関と連携した体育的活動や部活動における地域人材の活用促進	・町内関係機関との連携により、生徒の状況把握が可能となるため、情報交換を行いながら指導を継続してほしい。

※自己評価における数値は、各項目を「4・・・十分達成できている。3・・・達成できている。2・・・やや不十分である。1・・・不十分である。」で全教職員が自己評価した平均値